

屯田兵の父と呼ばれた

永山武四郎

北海道の開拓使として、札幌に赴任し、屯田兵制度の創設と発展に、力を尽くした永山武四郎を紹介します。

薩摩藩士の子に生まれ、帝国陸軍の軍人となった武四郎は、明治五年（一八七二年）九月、開拓使として、札幌に赴任しました。

当時の北海道は、大国ロシアの脅威に対する軍備が必要とされていました。

六年（一八七三年）八月、武四郎を中心とした開拓使中堅幹部らが、上司である開拓次官の黒田清隆に対し、屯田兵制度の創設を進言しました。また、同年十一月には、岩倉右大臣に対して同様の建白をしました。こうした開拓使たちの熱意により、十二月に同制度が設置されました。

八年（一八七五年）、開拓使の中に屯田兵の事務を扱う屯田事務局が設置され、武四郎も配属されました。また、東北地方や道内から初の屯田兵百九十八

戸が、琴似兵村に移住し、同制度が確立していきま

す。

十年（一八七七年）には、西南戦

争へ屯田兵第一大隊を率いて、政府軍の一翼として活躍。また、この年、官邸や官舎が与えられる開拓使としては珍しく、私邸を建築しました（永山記念公園（北二東六）内に現存）。このことから、北海道や屯田兵を愛した武四郎の心が伺えます。

十八年（一八八五年）、同事務局が屯田兵本部に改称され、武四郎は、初代本部長に就任しました。それから三十五年までの間、屯田兵の責任者として、多くの後輩を育成し、屯田兵制度の発展に生涯をささげました。

晩年は、東京で過ごすものの三十七年（一九〇四年）九月に生涯を閉じ、北海道の土となるという本人の遺志により、豊平墓地に埋葬されました（現在は、里塚霊園に改葬されています）。



永山武四郎